

第4学年5組 図画工作科学習指導案

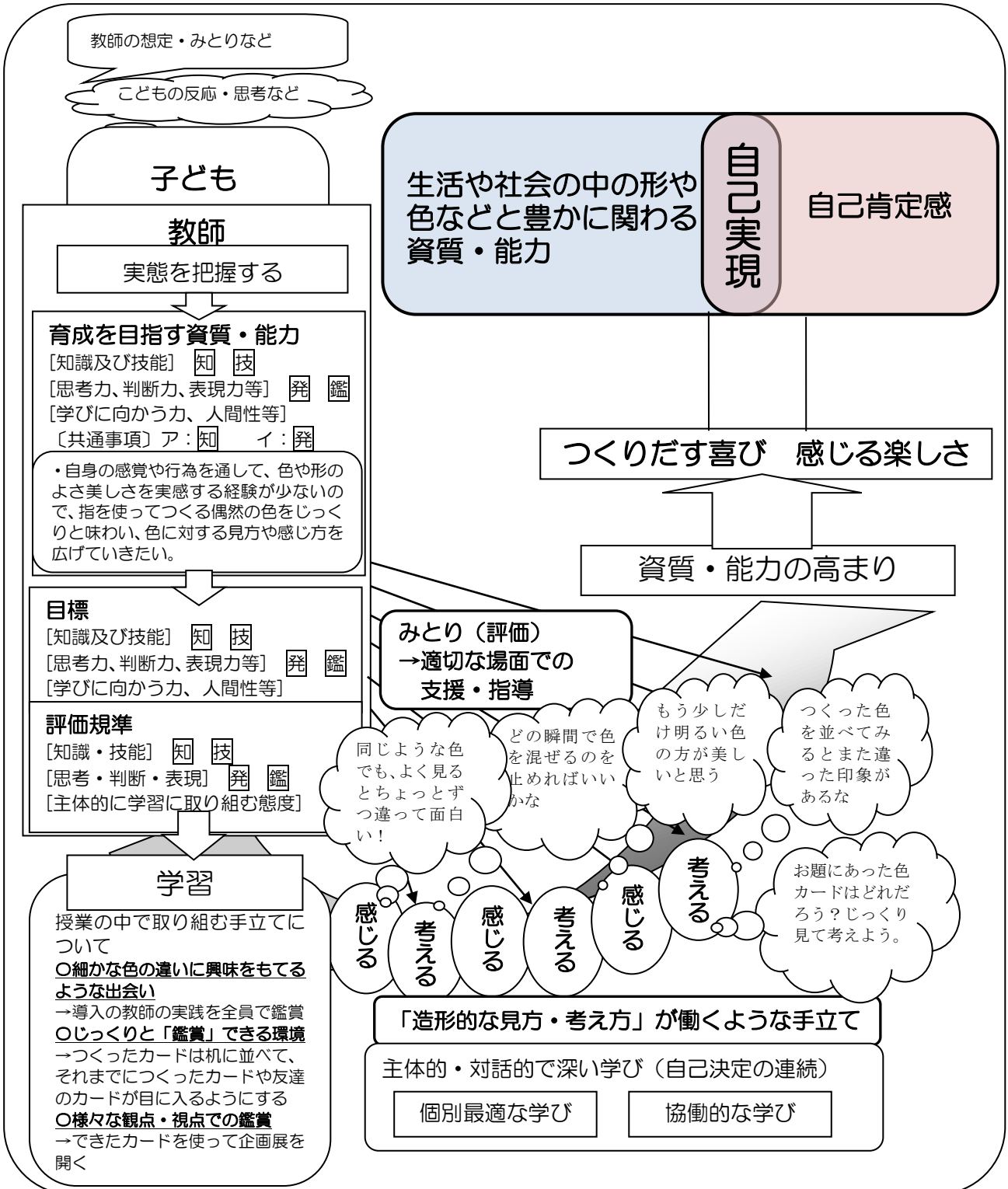
指導者 川崎市立宮崎小学校

小野田 浩士

1. 題材名 「色合い ひびき合い ～君だけの一瞬の色をキャッチしよう～」

B鑑賞 鑑賞の活動 2時間扱い

2. 「つくりだす喜び 感じる楽しさ」につながる授業の構想



3. 活動場所 図工室

4. 題材観

(1) 子どもたちの実態

・普段の様子

明るく、様々な活動に前向きに取り組める児童が多い。新しい活動にも興味をもって取り組もうとする姿が多く、多くの場面で見られる。その反面、各教科のスキルや様々な方法が身につけていないことが多く、「(自分の思いを)どう表現すればよいか」分からなくなってしまうことがよくある。様々な方法や知識、表現の引き出しさえ増やしてあげられれば、もっと自分から進んで活動を進めていったり、選択できたりすることができるようになる。

・図工の時間

図工の時間は楽しみにしている児童が多い。上記の通り方法を知らないことがたくさんあるので、図工で言えば先に技法や表現方法を提示してあげれば、それをヒントに楽しんでどんどん進めていける児童が多い。4月に行った「絵の具の夢もよう」でそれが顕著に見えた。先に絵の具の表現技法や、どんなところで工夫する余地があるかを先に提示した(実際には皆で考えていった)ところ、その後は自分の表現にどんどん突き進んでいく児童が多く見られた。

・表現することへの捉え

一言で言うと「表現はしたい、けれど自信がない、どうやっていいかわからない」という雰囲気がある。4月のはじめの頃は「～してもいいですか?」「～やってもいいですか?」という質問が非常に多かった。「自分がやってみたい表現は自由にしていいい」という捉えと「～する方法や～する方法がある」という方法の提示がセットで必要だと考えられる。その点において図工の時間があたえられるものは非常に多いという認識がある。

・自身の感覚や行為を通しての実感

自分自身の感覚や行為を通して得られる色や形のよさや美しさを実感したり、またそこから発展して自分の表したいことの表現やその方法を選択判断したりするような経験が足りないことが上記実態からも考えられる。この点に今回は重点を置き活動を進めていきたい。

(2) 題材と育成を目指す資質・能力

・2つの鑑賞

本題材は大きく分けて2つ、「鑑賞」の時間がある。1つ目は色を創り出す活動の中での鑑賞(前半)。2つ目は出来上がった色やカードを鑑賞する時間(後半)。この2つの鑑賞は活動時間こそ別になるが、子どもたちの中では繋がっている活動になる。前半の色づくりの時間に、「色をつくる」という目的のもとじっくり色と向き合い、少しずつ変わっていく色を鑑賞しながら活動を進めていく。後半では、前次の経験を活かしながら出来上がった色のカードを鑑賞し、視点を変えながらさらに色や形の持つよさや美しさ、または色から感じられる様々な印象や自分の見方や感じ方を広げていく。

- ・自分が感じたことを素直に認めたり伝えたり表したりできる力の育成

鑑賞活動を通して感じたことに、正解や不正解はない。授業として見させたい視点や気づかせたいことはあるが、基本的に「何を感じても大丈夫なんだ」という安心感の上に鑑賞の活動を進めていきたい。その先に「もっとこんな鑑賞したい」や「こういう風に作品を鑑賞したい」というの思いが出るようにもしてその特性を活かした手立てを考えていきたい。

また、視点や観点を変えることでものの見方や感じ方が変わることや、主体的によさや美しさなどを感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を深める体験させたい。

- ・新たな色との出会いと発見

児童は1年生の頃より、絵の具を混ぜたり、自分のねらった色をつくったりする活動を重ねてきた。4月に行った「絵の具の夢もよう」では、スパッタリングやドリッピングといった新しい表現技法に興味をもち、自身の感じ方や表現を広げていった。しかし「色をつくる」ということに関しては、すでに何回も経験を重ねてきた活動であり、新たな発見が少なくなっている。そこで今回は「①指を使ってつくる偶然できる色」ということ、また「②わずかな色の変化に注目させる」という2点から、新たな色との出会いと発見をさせたい。

5. 題材の目標

(1) 知識及び技能に関する題材の目標

○指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かる。(知識)

(2) 思考力、判断力、表現力等に関する題材の目標

○徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(鑑賞に関する資質・能力)

(3) 学びに向かう力、人間性等に関する題材の目標

○(中) 進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

○進んで指で絵の具を混ぜながら、色や形の組合せや、変わっていく様子の面白さを味わう学習活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。

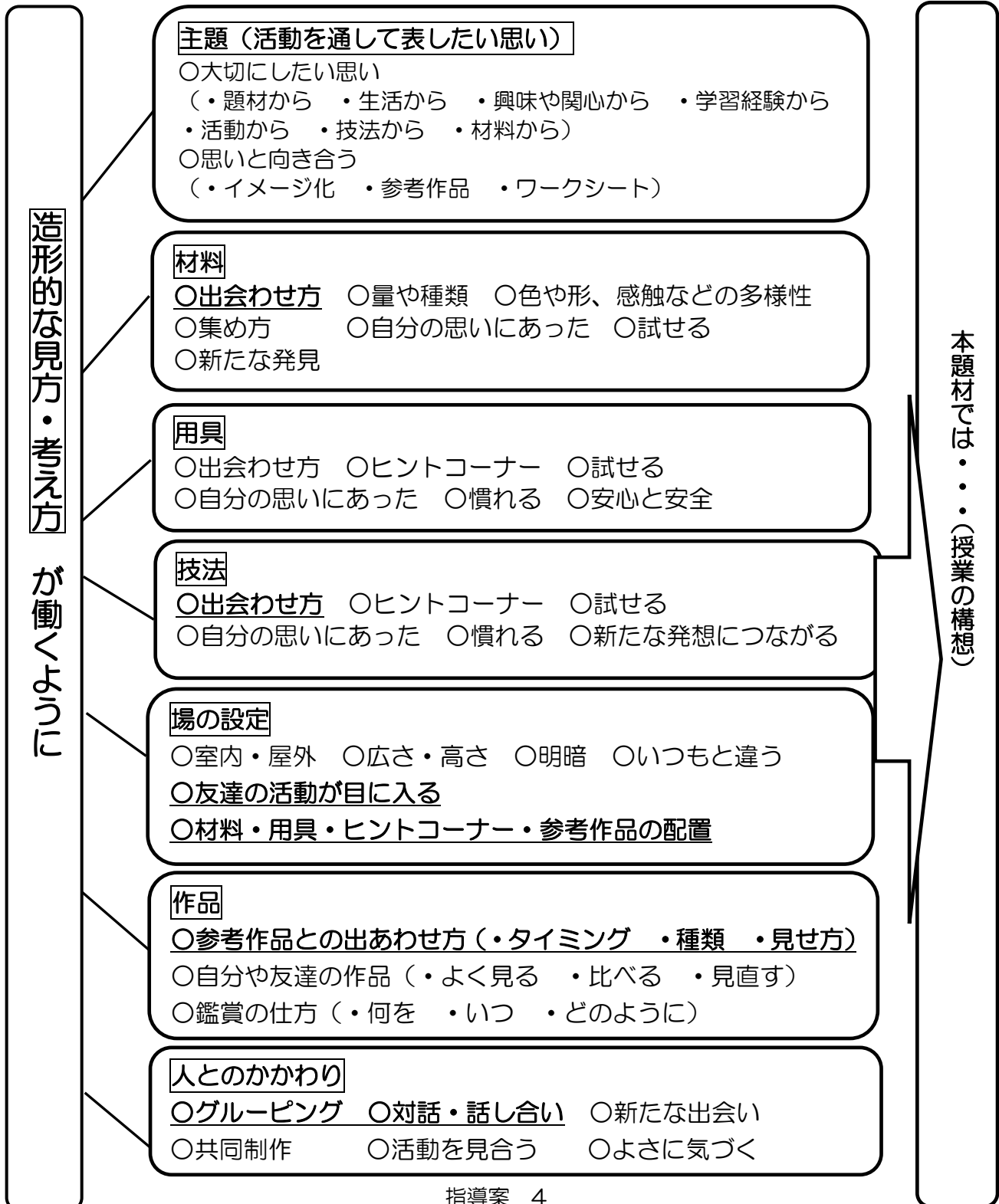
6. 題材の評価規準 ～ 3つの観点から育てたい力を考える ～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。	鑑 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	主 つくりだす喜びを味わい、進んで指で絵の具を混ぜながら、色や形の組合せや、変わっていく様子の面白さを味わう学習活動に取り組もうとしている。

7. 「造形的な見方・考え方」が働くような手立て

(1) 手立ての視点

- ・児童一人一人が細かい色の变化や違いに着目して、よさや美しさを感じられるようにする。
- ・自身の感覚や行為を通して進んで鑑賞したくなるための方法や、鑑賞するその対象を準備する。
- ・視点や観点を変えながら、様々な角度から鑑賞を進められるように考える。
- ・本題材における「鑑賞の方法」や「表現方法」ととどまらず、児童一人一人の今後の人生における「もの
の見方や感じ方」「表現するということのとらえ」に影響できるように考える。



(2) 本題材における、造形的な見方・考え方が働くような手立て

・細かな色の違いに興味をもてるような題材との出会い

授業の初めに教師が色カード作りを実践する。色に注目することをまずは全体に伝え、教師が色を混ぜていく。一人の児童に自分の好きな色になった瞬間を言わせ教師は指を止める。その後、同じ配色で絵の具を使い、同じように混ぜていく。ここで先ほどとは別の児童に自分の好きな色の瞬間を言わせる。この後にパソコンで色を混ぜる動画を一人一人に見せ、自分の好きなタイミングで止めさせる。この一連の活動から①「同じ絵具でも混ぜ方や混ぜる時間で微妙に色が変わること」と②「微妙な色の違いの中にも良さや美しさがありそうだということ」を実感させ、興味につなげたい。

・活動の流れと工夫のしどころが分かる導入の時間

6cm 四方のカードに自由に描いていくこと、指を使って描いていくこと、何枚でも試せること等、活動の流れは導入ですべて説明してしまう。そうすることで児童一人一人が、自分のペースで見通しをもって活動をすすめることができるようにする。また、児童が工夫したり考えたりできる要素・ポイントを事前に伝えるようにする。(個別最適な学びを意識)

【事前に伝える(考えさせる)こと 一覧】

- ・一度に使う絵の具の数はどうするか(2色?3色?もっと増やす?)
- ・絵の具の置く場所はどうか(どう配置する?何も考えずに置く?規則的に並べてみる?)
- ・絵の具の量はどうか(同じ量ずつ置いてみる?量を変える?たっぷり?ちょこっとだけ?)
- ・絵の具の混ぜ方はどうするか(グルグル混ぜる?他にはどんな混ぜ方がある?)
- ・指の使い方はどうするか(1本指?2本指?手のひら全体を使ってみる?)

・何度も試しながら活動を進められるような用具の準備

自分のつくった色や形を鑑賞しながら、さらに色を重ねたり形を変えたりできるように画用紙は厚めのもを準備する。また作り終えた色や形を振り返りながら、活動を進められるように画用紙は多めに用意する。

・色や形を作りながらじっくりと鑑賞できる場をつくる

今回の題材は鑑賞題材なので、完成した色カードや色カードをつくっている最中の色や形をじっくりと鑑賞できるようにしたい。次々と色カードをつくることに興味が向き、じっくりとその色や形を味わうことなく活動が進んでいくことは避けたい。そのため、活動は4人グループにして、つくったカードは同じ机の上に並べていくことにする。こうすることで、自然と自身の活動とつくった色や形、また友だちのつくった色や形をじっくりと鑑賞しながら、さらなる発想や造形的な見方や考えをふくらませることができる。

・「企画展」というお題による鑑賞

2次の活動では「企画展」を開催するというテーマで鑑賞活動を進めていく。児童はくじ引きで選ばれたテーマに沿って、チームで模造紙の上に前次でつくった画用紙を相談しながら並べていく。こうすることで前次とは違った視点や観点で色や形を鑑賞することができ、またチームで一つの展示会を開催するということから、自分の感じ方や見方を他他者のそれと共有しながらさらに広げていくことができる。企画展の名前は①ドキドキ展 ②ふわふわ展 ③ちょちょ展 ④わくわく展 ⑤ドッキリ展 ⑥なかよし展 ⑦どんどん展 ⑧ガサゴソ展 など、色や形に直接結びつかないテーマにする。こうすることで並べ方をすぐに決められなくなり、活発な意見の交流を見込みたい。また、正解のないテーマなので全員が同じ土俵で安心して鑑賞を進められるようになる。

8. 準備

- [教師] 導入用色カード 置き置き場 共同絵の具 6cm 四方サイズ画用紙 模造紙
[子ども] 絵の具セット 濡れ雑巾

9. 指導と評価計画（2時間扱い）

	◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手立て ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準□と 評価方法（ ）
1 次 4 5 分 本 時	◇教師による色カードづくりの実践を鑑賞する。 ◇教師の色づくり動画の中から自分の一番美しいと思う瞬間を探す。 ・同じ絵の具なのに、止めるところによって色が全然違う。 ・僕はこの瞬間の色が好きだな。 ・自分でも色を混ぜてみたいな。	◎代表で2名ほどの児童に、教師が混ぜていく色を自分の好きな瞬間で止めさせる。 ◎教師が色を混ぜる動画を一人一人のパソコンで鑑賞させ、自分の美しいと思う瞬間で再生を止めさせる。 ○色の細かな違いや、人それぞれ様々な感じ方があることを確認、共有する。	
色が混ざっていく 一瞬の美しさをつかまえよう！			
	◇色カードの作り方や目的を確認する。 ・早くつくってみたい！ ・たくさん作りたいな ・どんな色にしようかな ◇色カードをつくる。 ・色が混ざるのが楽しい ・何色混ぜようかな ・並べながら、次の色を考えてみよう！ ◇できたカードを鑑賞する。 ◇活動を振りかえる。 ・たくさん色を作れて楽しかった。 ・同じような色でもすべてちょっとずつ違うことが分かった。 ・もっとこのカードを使って鑑賞したいな。	◎活動の概要、方法を説明する。 ◎何度も試したり、自分のつくったカードをじっくり鑑賞しながら活動を進めていけるようにつくったカードは机に並べていくことを伝える。 ○観点を変えるために、いくつかお題を出しながら活動を進めていく。 ・好きな色はどれ？ ・落ち着く色はどれ？ ・元気の出る色はどれ？ ○同じテーブルにある友だちのカードも鑑賞の対象にする ○集めたカードは黒画用紙に並べる ○次はどんなことをしてみたいか聞いてみる。	知 指で絵の具を混ぜる時の感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 (活動の様子・色カード) 鑑 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

2 次 4 5 分	◇前の時間につくった色カードを鑑賞する。	○前次で感じたことや、楽しかったこと、考えたことなどをもう一度思い出せるような時間にする。	
色カード美術館のキュレーターになってみよう！			
	<p>◇活動の流れを確認する。</p> <p>◇企画展のテーマをくじ引きで決める。</p> <p>◇色カードを模造紙に並べて企画展を表現してみる。</p> <p>◇どのチームがどの企画展を表したか見回って当てる。</p> <p>◇活動の振り返りをする。</p>	<p>○活動の流れをはじめに確認する。 ○キュレーターの仕事を説明する。</p> <p>◎鑑賞の新たな視点のきっかけになるような企画展のテーマを提示する。</p> <p>＜企画展のテーマ＞ ①ドキドキ展 ②ふわふわ展 ③ちょちょ展 ④わくわく展 ⑤ドッキリ展 ⑥なかよし展 ⑦どんどん展 ⑧ガサゴソ展</p> <p>○並べ方を決めるときは一人の意見で決めないことを伝える。</p> <p>○全体を見たり、一つ一つのカードを見たり、色々な見方があることを紹介する。</p> <p>○意見交流の後、各チームの企画展名の発表とその理由を発表させる。</p> <p>○当たるかどうかではなく、様々な感じ方や見方があることを体感する機会になるようにする。</p>	<p>鑑 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>

※主体的に学習に取り組む態度は、児童自ら「知識及び技能」を獲得したり、「思考力判断力、表現力等」を身に付けたりするために、粘り強く取り組んだり学習を調整したりしている姿を活動全体を通して評価する。

10. 本時の活動（1/2時間 45分）

（I）本時の目標

（1）知識及び技能に関する題材の目標

○**知** 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを理解する。

（2）思考力、判断力、表現力等に関する題材の目標

○**鑑** 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。（鑑賞に関する資質・能力）

（3）学びに向かう力、人間性等に関する題材の目標

○（中）進んで表現したり鑑賞したりする活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。

（II）本時の展開

◇子どもの活動 ・予想される子どもの反応	○教師のかかわり・手立て ◎造形的な見方・考え方が働くような手立て	評価規準 <input type="checkbox"/> と評価方法 ()
◇教師による色カードづくりの実践を鑑賞する。 ◇教師の色づくり動画の中から自分の一番美しいと思う瞬間を探す。 ・同じ絵の具なのに、止めるところによって色が全然違う。 ・僕はこの瞬間の色が好きだな。 ・自分でも色を混ぜてみたいな。	◎代表で2名ほどの児童に、教師が混ぜていく色を自分の好きな瞬間で止めさせる。 ◎教師が色を混ぜる動画を一人一人のパソコンで鑑賞させ、自分の美しいと思う瞬間で再生を止めさせる。 ○色の細かな違いや、人それぞれ様々な感じ方があることを確認、共有する。	
色が混ざっていく 一瞬の美しさをつかまえよう！		
◇色カードの作り方や目的を確認する。 ・早くつくってみたい！ ・たくさん作りたいな ・どんな色にしようかな ◇色カードをつくる。 ・色が混ざるのが楽しい ・何色混ぜようかな ・並べながら、次の色を考えてみよう！ ◇できたカードを鑑賞する。 ◇活動を振りかえる。 ・たくさん色を作れて楽しかった。 ・同じような色でもちょっとずつ違うことが分かった。 ・もっとこのカードを使って鑑賞したいな。	◎活動の概要、方法を説明する。 ◎何度も試したり、自分のつくったカードをじっくり鑑賞しながら活動を進めていけるようにつくったカードは机に並べていくことを伝える。 ○観点を変えるために、いくつかお題を出しながら活動を進めていく。 ・好きな色はどれ？ ・落ち着く色はどれ？ ・元気の出る色はどれ？ ○同じテーブルにある友だちのカードも鑑賞の対象にする ○集めたカードは黒画用紙に並べる ○次はどんなことをしてみたいか聞いてみる。	知 指で絵の具を混ぜるときの感覚や行為を通して、色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどが分かっている。 （活動の様子・色カード） 鑑 色の感じ、形の感じ、それらの組合せによる感じ、色の明るさなどを基に、自分のイメージをもちながら、徐々に変化する色の様子などの造形的なよさや面白さなどについて感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。

